



国際会長 (IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

“Building today for a better tomorrow”

「よりよい明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田中 博之 (東京多摩みなみ)

“Action!” 「アクション」

東日本区理事 (RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動！」

“Innovation with Courage, Action with Heart”

湘南・沖縄部部长 (DG) 森田 幸二郎 (沖縄)

「ワイズを社会に広める基盤の再構築をする」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、地域、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Community, With Y's Men!”

会長 古田 和彦
副会長 金子 功
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 金子 功

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 一弘

<今月の聖句>

古賀 健一郎

「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げずもはや戦うことを学ばない。」

(イザヤ書 2 章 4 節)

今月のひとこと

「善意の輪」

大高 治



クラブ例会後の居酒屋で、「東西南北路線の共同乗り入れが増えて便利になったが、行先の確認は紛らわしくなった」というようなことが話題になりました。

日本の案内や表示は、一定の知識のある人には実に親切ですが、何も知らない

人にはもう一言加えて欲しいとかねがね思っていました。

ある時、渋谷に行くため、横浜から湘南新宿ラインに乗りました。しばらくすると、近くの外国人女性がそわそわ始めました。「どうしましたか？」と聞けば、「船橋に帰るのですが、この電車で良いのでしょうか？」と。「これは船橋には行きません」「横浜駅に着いた時のホームと反対側に乗るように教えられ、そうしたのです」と云う。

大崎で乗換え、品川で千葉や成田行きに乗り換えれば良いのですが、それを説明しても無理と直感。少なくとも大崎で降り、少々離れた品川方面行きのホームを教えてあげなけれ

ばならないだろう。だが、私は先を急いでいます。その時間がありません。私は何のためらいもなく立ち上がり「すみません。何方かこの方を大崎駅で品川に行く電車に乗せて頂ける方はおりませんか。この方は船橋まで行くのです」

左右離れた席から男性二人が立ち上がり、「いいですよ。品川まで行ってあげるよ」と。「品川まで行って下さるのですか？大丈夫ですか！」中年の二人は「英語は出来ないが、今日は時間があるから、大丈夫！」と心強い返事でした。

親日国オーストラリアからの女性に事情を説明、私は何の心配もなく渋谷に向いました。何と言ったら良いのだろうか。善意の輪が直ぐ出来ました。今日は頼もしい人たちに巡り合えたのです。

思い起せば、50 数年前フィラデルフィアへの出張がありました。ニューヨークからアメリカで初めて AMTRAK に乗りました。驚いたことに車内放送がありません。車掌が大きな声で「次は〇〇駅」と回って来るのです。全く聞き取れません。Philadelphia はスペルも発音も難しい。切符を買う時は「フェロドフィア」と言うか、難しかったら「古豆腐屋」が良いと教えられました。ジョン・万次郎が「What time is it now?」を「掘った芋、いじるなあ」と覚えたようなものです。困った私は周りのお客さまに「車掌の案内は聞き取れません。Philadelphia が近付いたら、教えて下さい」とお願いしました。しばらくすると、周囲の方々は「次ですよ」と親切でした。

無事仕事を終えての帰途、「古豆腐屋」駅舎の大きなドームの壁画を眺めていたら、トントンと肩を叩く人がいます。「道に迷っているのではありませんか？」と学者風の紳士に日本語で聞かれました。「大丈夫です。ドームに見とれていました」「それは良かった」と小柄な紳士は人混みに消えて行きました。この日の車内と駅舎で受けた善意は忘れるこ

<2019年8月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 9名 メネット 2名 コメット 0名 ビジター 13名 ゲスト 1名 合計 25名	75 % (メーキャップ名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<9月の行事予定>

キックオフ、Yサービス、ASF、RBM

日	曜	時間	行事内容	場所
2	金	10:00	日本語スピーチコンテスト	県民ホール
3	木	18:30	Y-Y's 協議会	中央Y
6-8			ユースボランティア・リーダーズ・フォーラム	山中湖センター
12	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
26	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

とが出来ません。このことが脳裏にあって、湘南新宿ラインでは、「困った時は声を出せ」と反射的に立ち上がったのかも知れません。思えば多くの人々の善意に支えられて、暮し、旅をし、仕事をして来ました。今度はお返しする番であることに気付きました。

去る8月27日から4日間、第7回 TICAD、アフリカ開発会議が横浜で開催されました。私はその第5回目から Yokohama Convention Supporter としてボランティアを続けています。10年前にはワイズメンズクラブの国際大会での Supporter としてのお手伝いから、ワイズメンズクラブを知ることになりました。善意の輪に加わろうとの思いが、ワイズの善意の輪に招かれたのです。幸運な巡り合せです。

拘らない心で人に接すれば、人の輪は幾つになっても足し算が続けられそうです。そして人の輪はまた、人の和に繋がるとの思い、大切にしたいと思います。そしてそれは自分の楽しみを増やし、自分の健康にも大いに役立つのです。

「8月第一例会兼横浜・鎌倉・横浜とつか 3クラブ合同納涼会報告」

古田 和彦

日時：8月22日（木）18：30～20：40

場所：ロイヤルホール横浜

出席者：（横浜）青木、伊藤、大江、大高、金子、古賀、齋藤メン・メネ、田口、古田メン・メネ

（鎌倉）池田光司、田中義宣、千葉裕子、長野邦子、兵藤芳朗、吉田慧美子 （横浜とつか）有田征彦、浦出昭吉、大高聡、岡進、加藤利榮・明子、柴原和可、瀬戸敏孝

ゲスト：茂木雄

ビジター：佐藤茂美（東京）、伊藤幾夫（東京多摩みなみ）、川口知幸、日下部美幸、小松仲史、佐藤節子（以上、厚

木）、木村久仁夫、峯尾舜、山田一男（以上、金沢八景）、鈴木茂（横浜つづき）、久保勝昭、久米康子、中村純子（以上、横浜つづみ） 計39名

例年、横浜クラブの8月第1例会は、今村ワイズの肝いりで既の食卓を会場とし、ハワイアン・フラダンスなど他クラブからのビジターを含め横浜クラブ納涼例会として行ってきたが、今村ワイズの退会により、新たな企画を検討してきた。

一方、横浜とつかクラブも20年間続けてきた加藤邸での納涼例会を他の形に変えることを検討していたことから、部内各クラブの皆さんとも話し合いの結果、合同できるクラブを募り、合同例会を持つこととし、合同できないクラブからも個人での参加を募って新しく納涼例会を行うこととなった。



その結果、上記の様に横浜・鎌倉・横浜とつかの3クラブでの合同納涼例会が実現し、部内の他クラブ・在京諸クラブからの参加を得て実施することができた。

まず、18：30から第1部。司会は古賀ワイズ。古田横浜クラブ会長の点鐘で開始。一同で、ワイズソングを歌い、ワイズの信条を唱和し、古賀ワイズが今月の聖句、マルコによる福音書10：13-16を朗読した。

続いて、鎌倉クラブ吉田慧美子ワイズ入会式を行う。千葉鎌倉クラブ会長の司式、立会人は加藤元日本区理事、佐藤直前部長、古田次期部長。厳かに入会の誓約が行われ、出席者一同感謝のうちに挙行された。

短いビジネスの後、いよいよ第2部、田口ワイズの祈祷・乾杯で懇親食事を開始した。

食事が一段落したのち、伊藤幾夫ワイズのギター、久保勝昭ワイズのフォークソングを皮切りに古賀ワイズの軽妙な司会の下、楽しく歌い、歓談の時を持った。あつという間に時間が経過。最後に、加藤ワイズ・メネットへの20年に及ぶ加藤邸での納涼例会を企画運営して下さったことへの感謝の言葉を佐藤直前部長から述べ、続いて、加藤ワイズのワイズ還暦をお祝した。横浜クラブに1959年4月入会以来ワイズ歴60年である。お祝いの言葉を浦出横浜とつか会長から、感謝の寄せ書き



横浜クラブからの参加者
例会には初参加の齋藤メネットの姿も

を古田横浜クラブ会長から贈呈した。

ハッピーバースデーは田口、田中、古賀、中村、池田、齋藤メネ、久保、何と7名の方々。

20:40、浦出とつかクラブ会長の閉会点鐘をもって終了。

「第7回日本語スピーチコンテスト報告」

大高 治

9月2日(月)10時から、県民ホールで2回目の開催になる今年度のコンテストは、横浜YMCA学院専門学校、YMC A健康福祉専門学校(厚木)、YMC A国際ビジネス専門学校(川崎)、東京YMCAにほんご学院、YMC A東京日本学校から11名が出場しました。出場者各自持ち時間5分まで今日の勉強の成果を発表されました。

433名入る同ホールはそれぞれの学院からの応援者に加え、ワイズメンズクラブからの参加者も昨年を上回り、遠く東京クラブを初めとして、厚木クラブ、横浜つづきクラブ、横浜とつかクラブ、更に一般の方々に、空席は後方にわずかに残す程度でした。日本最初の開港の地、横浜に相応しく、更に一般の方々に関心を持って頂けることを期待します。



挨拶をされる古田会長

安富由紀子さんの総合司会の下、冒頭の挨拶で、横浜クラブの古田会長は「当クラブは第一回から応援して来ました。本日は、7か国からの皆様が、それぞれの国や地域の文化に根差したものの見方やお話しを下さる

ことに期待しています」と述べ、横浜YMCA田口総主事は「誰でもこの壇上に立つと緊張します。山下公園、氷川丸を目の当たりにするこの地は、最初に世界に開かれた所であり、100年前の関東大震災では、外国人の避難者に宿舎を提供した所でもあります。文化や習慣の違いをどうしたら認め合えるようになるか、このコンテストでも何かのヒントは得られることを期待しています」と挨拶されました。

審査は横浜クラブの金子功ワイズ、厚木クラブの日下部美幸ワイズ、神奈川県青少年国際交流機構の梅本真理子様、YJCサポーターの今後茂明様、恵泉女学園大学の秋元美晴様の5名で行なわれました。

ベトナム、フィリピンから各3名、タイ、中国、台湾、モンゴル、韓国から各1名のスピーカーは、それぞれ個性のある話しを披露しました。将来は日本語の先生になりたいベトナムの友、日本での驚きを話された台湾の友、雨の日の新聞配達苦勞も80歳のおばさんに励まされ、一所懸命働くことの尊さを知ったと言うベトナムの友、更にいつでもどこでも100%の日本人に比べ、仕事も勉強も70%の母国の人々をどうしたら100%に出来るか、マナーとルールを守り、責任感を持つことだとの意欲を熱く語ったモンゴルの友など、時に話しが聞えると「頑張れ!」と激励が飛ぶ。聴衆も一体になっての友情が感じられ良い雰囲気でした。

最優秀賞は日韓の花火の違いを述べ、次は「ゆかた」で彼女と行きたいとの夢を語った韓国の崔容準さんが獲得し、優秀賞は「はくろ」のある自分の特色を生かして明るく振舞い、自分の家を建てたいと言うフィリピンのRivas Rechel Alminarさんが獲得した。3位相当の共立メンテナンス賞は、

災害にあっても前向きに考える時、人は幸せです。「辛」の文字は「幸」と1角の違いで似ているというベトナムのBui Mai Phuongさん、4位の神奈川県青年国際交流機構賞は、愛のチャレンジを熱く語ったフィリピンのManzano May Guevarraさんが獲得しました。

熱気冷めやらぬ中、厚木クラブの日下部会長は「自分の国の言葉でない言葉でスピーチをするのは大変です。皆さんは実に立派です。日本人は表情を顔にだしません、花火を一人で見に行った話しをここにこ話された崔さんには感心しました」との明るく感想を述べ、閉会の辞とされました。



横浜クラブ参加者と横浜YMCA学院専門学校の皆さん

第二部は中央YMCAに移り、和やか雰囲気の中で、横浜クラブの古賀ワイズの司会で交流会、表彰式が開かれました。横浜つづきクラブの鈴木ワイズの音頭での乾杯の後、横浜クラブの古田会長からそれぞれ賞状並びに賞金が手渡され、残る全員に努力賞が渡されて、上位入賞者の答礼もありました。

審査員長の秋元教授からは講評として、「参加者11名から興味深いお話しを聞かせて頂きました。参加出来なかった1名の方の早い回復を祈ります。男性2名、女性9名の参加でした。世界中どこでも元気なのは女性です。これからも元気で頑張りましょう。スピーチは皆さん個性が出ており僅差でした。最優秀賞は韓国の崔さんに輝きました。最悪の日韓関係ですが、明るく花火のことを語られました。来年はもっと明るくなっていることでしょう」と締めくくられました。

横浜クラブ出席者は、青木、伊藤メン・メネ、大高、金子メン・メネ、古賀、田口、古田の9名でした。

「近況報告」

伊藤 誠彦



前年度、部の会計を担当させていただいたご縁で、沖縄YMCA理事長知念一郎さんのご著書「82歳・男の自立」(令和元年5月出版)をいただく幸運を得た。できる限り人に頼らない生き方をするための5つの目標として①人に頼らない

生活の自立、②医者に頼り過ぎない健康の自立、③人まかせにしない心の自立、④人と関わる生きがいの自立、⑤生と死の自立、にまとめられている。

これまで、年をとってからの男の自立とは、経済的な自立のことだと思いこんでいたが、大いに啓発され、多くのことでメネットに依存している今の生き方を反省し、目から鱗が落ちる思いがした。

目から鱗と言えば、白内障の手術をした。濁った水晶体を取り除き人工の眼内レンズに置き換える手術である。6月末に左目、一週間おいて7月初めに右目を手術した。

左目手術後、眼帯を外した時に思いもかけないことに気が

付いた。それは、手術後の左目で見る色と、まだ手術をしていない右目では、色が違って見えることである。特に、真っ白な色は手術前の目では少し黄ばんで見えている。

徐々に濁ってきたため、全く自覚がなかった。そう言えば過日、孫と歩いていて「あの焦茶色の建物を右に曲がろう」と言うとき孫は「あの紫色の建物？」と聞いてくる。この子はひょっとして色弱なのではと心配したことがある。今見れば確かに紫色に見える。

知らず知らずのうちに世の中を間違えて捉えている怖さを感じた。何事も自分の思い込みではなく、これで良いのか？本当は何が正しいのか？と自問する習慣を身につけなければと反省している。

《Change!2022 ニュース講読のお願い》

Change! 2022 推進委員会

(この記事は「Change! 2022 推進委員会」(栗本治郎 委員長)の要請により掲載しています)

「Change! 2022」は、ワイズ創立100周年となる2022年をゴールとする東日本区の会員増強運動です。目標とする人数は、1997年に東日本区が発足した時の会員数1246名です。この目標を達成するために、会員増強に関連するニュースを発信しようと、東日本区では「Change! 2022 ニュース」を毎月15日に発行致します。是非お読みいただき会員増強活動のヒントにしていだければ幸いです。

この《ニュース》を読むことによってお互いに刺激をもらい、与えあうために会員の皆様からも、会員増強に関連する記事の寄稿・投稿をお願いします。

- ・新クラブを立ち上げている
- ・こんな会員の誘い方がある
- ・新入会員の感想
- ・新しい会員増強のヒント

など、どのようなテーマでも随時受け付けますので、記事をお寄せください。記事の送り先は、編集長の下記のアドレスへお願いいたします。

itami@tailor-itami.com

なお、ワイズドットコム、会員全員メール(ロースターに登録のある方)で配信しております。また、東日本区ホームページにも掲載されます。



担当主事 青木 一弘

●富士山キャンプ 駐在ボランティア

今夏、私は、富士山YMCAの駐在スタッフとしてキャンプの応援に行きました。また、担当部門から、日本語学科の学生1名、国際情報ビジネス科の学生3名も富士山YMCAキャンプのボランティアに参加してくれました。



キャンプに参加した
日本人・留学生ボランティア

多くの子どもたち

と交流し、プログラムの指導をしたり、母国語を子どもたちに紹介したりと有意義な時間を過ごしました。帰ってきた学生は、肌が程よく焼けていて、キャンプの思い出をとっても楽しそうに語ってくれました。教室での勉強以外にも、日本での生活を充実したものにしてもらえればと思います。

●バザー献品大募集!!

ウエルカムフェスタでは、バザーの検品を募集しています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

受付期間 9月9日(月)～11月18日(月)

受付場所 1階総合受付および各階窓口

※新品・未使用

日用品・雑貨・タオル・靴・衣装・食器・調理雑貨等

※未開封・正味期限内

缶詰・瓶詰・酒・飲料・お茶・コーヒー・調味料・食用油等

※開封・使用后新品同様

書籍・絵本・ゲームソフト・CD・DVD・バッグ・小物等

以下のものはお預かりできません。

ぬいぐるみ・壊れた玩具・家具・電化製品・着用した衣服・布団等

9月例会プログラム

日時: 9月12日(木) 18:30～20:30

場所: 横浜中央YMCA 801号室

司会: 古田ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶 古田会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 全員
3. 今月の聖句 古賀ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介 古田会長
5. 食前感謝 古賀ワイズ
6. 食事
7. 卓話 「社会福祉法人聖坂学園活動報告」
法人本部 高山 健氏
8. ビジネス・報告 古田会長、他
9. 閉会点鐘 古田会長

例会報告 伊藤ワイズ

10月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
5	土		部役員会(次々期部長選考)	中央Y
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y
26	木	18:30	次期部長、事業主任研修会	日本YMCA同盟

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080

★ 強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う ★